

北海道教育大学釧路校「情報機器の操作e」（1年生） 授業実践報告

竹ヶ原， 康弘
北海道教育大学釧路校教育学部教員養成課程：非常勤講師

<https://hdl.handle.net/2324/4822572>

出版情報：オンライン授業の地平：2020年度の実践報告，pp.69-69，2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike International



1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は教員養成課程の学生、特に将来国語科・社会科・保健体育科の教員を目指す学生が共通に身につけるべき基礎的な知識・技能の習得を目的として開講されている。演習形式で、第1回で大学教育情報システムの利用法、第2回はプレゼンテーションソフト、第3回から第5回はワープロソフト、第6回から第9回まではプログラミング基礎(平成29年3月告示小学校学習指導要領対応のため)、残りの時間は表計算ソフトの使用法を学習する計画である。例年、表計算ソフトの操作に苦勞する学生が多いため、授業計画の内、1/3ほどの時間を表計算ソフトの演習に割り当てている。評価については、出席状況・課題の提出状況・提出物の内容を採点対象とする予定であった。

しかし、授業の開始が5月11日からと遅れたこと、学生の教室移動時の接触を避けるために授業時間が組み替えられたこと、遠隔授業が基本となったこと等の理由で当初の予定を変更する必要性が生じた。ただ、当地はコロナの感染者が少なかったため、6月1からは状況を見ながらではあったが対面・遠隔併用で授業を実施した。

遠隔授業ではZoomと事前に録画した動画の配信とを併用した。大学によって非常勤講師用のZoomアカウントも用意されていたが、2アカウントのみであり、非常勤講師の人数から考えると確実に使用できる保証は無かったため、5月の授業開始前に個人で有料のZoomアカウントを取得している。

課題の提出には大学教育情報システムを利用し、課題の提示・配布には大学教育情報システムと個人のブログとを併用した。ブログを併用した理由は、大学教育情報システムが早朝のメンテナンス時間に使用できなくなることへの対策と、ブログのアクセス解析機能によって学生が使用している端末の情報を収集するためである。個人情報扱う場合は別に用意したID/パスワードが必要なブログに書き込むか、あるいは大学教育情報システムのメッセージ機能、または電子メールにて連絡をとった。しかし、対面授業における学生との

コミュニケーションの質・量と比較するといかにも不十分であり、学生との意思疎通に課題を残した。

昨年度から情報機器の操作の授業内で自分がPCを操作している動画を学生に視聴させることを計画していたため、遠隔授業用の動画の作成はスムーズであった。作業動画の作成にはWindows10の画面キャプチャ機能と、Zoomの画面録画機能とを併用した。

多くの学生が苦手とする表計算ソフトの演習は6月の遠隔・対面併用授業の開始を待つことにし、6月になった時点で受講者を2班に分け、

第1週

A班:遠隔授業。動画視聴でワープロソフト実習。

B班:対面授業。表計算ソフト実習。

第2週

A班:対面授業。表計算ソフト実習。

B班:遠隔授業。動画視聴でワープロソフト実習。

※第3週・第4週は上記の繰り返し。補習を1時間実施。と入れ替え制での授業を展開した。

評価は出席点を重く見た学生が体調不良を押して登校することを防ぐため、前述の評価基準の内、課題の提出状況と提出物の内容とを評価対象とした。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

コロナ禍以前に授業者が企図していた形での授業展開にはならなかったが、学生アンケートの結果によると、授業に満足した学生は約87パーセントであった。彼らが「満足した」と回答した理由に「動画で見返すことができた」「動画がわかりやすかった」があった。情報機器の操作の遠隔授業において動画教材が有効に機能したようである。一方「表計算ソフトの対面授業ではわからないことが直接聞けた」との意見もあり、偶然に話を聞くことが出来た受講生によると「表計算ソフトについては、そもそもわからないところがわからないので、先生に見てもらうしか解決方法が無い」との声があった。次年度も遠隔授業が基本となるのであれば、オンラインでの共同編集を活用するなどの方法を検討する必要がある。